

ベトナム視察報告

第二技術班 里見 暢子

1. 視察概要

目的:高専機構は、「新産業を牽引する人材育成」、「地域への貢献」、「国際化の加速・推進」の3つの方向性を軸に、場合によっては複数の方向性を組み合わせ、各高専の強み・特色を伸長することを目的として、“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブを実施している。本校においては、海外インターンシップや工場見学等の受入先企業の新規開拓を行っており、治安が安定し高い経済成長を続けているベトナム(ホーチミン)を視察したので報告する。

視察者:物質工学科 山崎隆志、城野祐生

技術職員 里見暢子

視察日程:平成30年2月28日(水)～3月3日(土)

訪問企業:花王株式会社、キリンビバレッジ株式会社

2. 視察報告

2.1 4年生工業見学

訪問した2社の工場見学の受入れ態勢は整備されており、これまでに日本の高校生の修学旅行も受入れ実績があり、4年生の工場見学の受入れに関しては全く問題ない。さらに、YKK社、リクシル社、サッポロ社も受入れ実績があるという情報を頂いた。

2.2 インターンシップ

花王社は不可能という回答を得た。理由は、現地でその様な仕組みがなく、生活面のケアもできないとのこと。キリン社は、大学生の受入れ実績があるが、現地担当者が変わると変更の可能性もある。

2.3 生活面

ホーチミン市内の食事については、日本人の口に合い基本的に問題がないと考えられる。値段も日本の4分の1程度で非常に安い。屋台等の不衛生な店舗では注意が必要である。

ホーチミン市内の交通は、鉄道が整備されておらず、タクシーやバスでの移動となる(地下鉄建設中2019年頃)。また、市内は車、特にスクーターが多く、歩行や横断には注意が必要である。

3. 視察における率直な感想

ホーチミン市内で建設が進められている地下鉄は日本のODAが協力している。私は、ODAの活動を実際に目にしたのは初めてであった。地下鉄が完成することで慢性化した交通渋滞がどう変化するのか、今後が楽しみである。また、訪問した2社の従業員は7割が女性であった。ベトナムの女性は非常に手先が器用で勤勉とのこと。本視察において、国際社会における日本の在り方に触れることができ、『女性が活躍する社会』を実現しているベトナムから学ぶべき点も多くあると感じた。

